

スナメリ がわら版

2008
秋・冬

vol.18



大村湾に残る戦争遺構～魚雷発射試験場跡(川棚町)

- 大村湾のスナメリとカブトガニ..... 23
- 大村湾に残る戦争遺構をめぐる..... 45
(川棚史談会、大村市史談会)
- 大村湾でがんばっています..... 6
- 大村湾にくらす..... 7

大村湾の

スナメリとカブトガニ

大村湾のスナメリとカブトガニは、県の絶滅のおそれがある生きものに登録されています。今回は大村湾で日頃から調査を続けている西海パールシーセンター(佐世保市)の専門家(中村さん・岩岡さん)にお聞きしました。



西海パールシーセンター
中村清美さん

大村湾のスナメリ

大村湾には、およそ300頭のスナメリがすんでいるといわれています。そして、そのスナメリたちは一生を大村湾で過ごすといわれてきました。はたして本当なのでしょうか。そこで、その真相を確かめるべく、長崎県のバックアップの下、独立行政法人水産総



大村湾のスナメリ

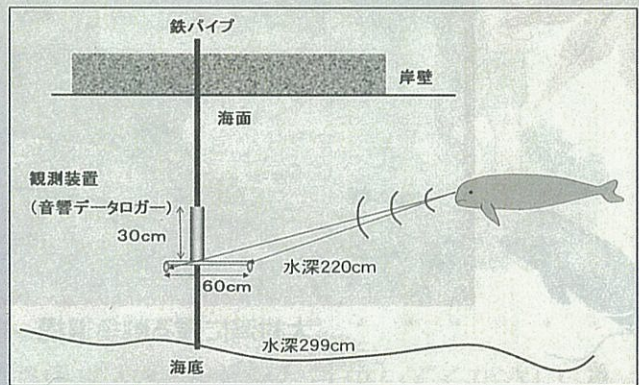
合研究センター、長崎大学、西海パールシーセンターが共同で調査を開始しました。「本当に一生を大村湾で過ごしているのか調べよう」プロジェクトの始まりです。

まずは、大村湾の出入り口である針尾瀬戸で観察開始です。しかし、スナメリは、背ビレがないため見つけづらく、さらに、夜間の観察は暗いため非常に困難です。そこで、秘密兵器「音響データロガー」の

登場です。この装置、海の中に設置しておく、自動的にスナメリが発する声(超音波)を録音してくれませう。この装置を使って針尾瀬戸にやってきたスナメリの声を録音し、スナメリの来遊状況を調べることになりました。成果はますます。3月から4月にかけて、たくさんのスナメリが針尾瀬戸にやってきていることがわかりました。そして、昼間よりも夜間にやってくるのが明らかになりました。このプロジェクトが始まり、1年がたちました。この1年でスナメリが針尾瀬戸にやってくることは明らかになりました。

しかし、針尾瀬戸にやってきたスナメリがその後どこへ行くのかは、まだ謎のままです。今後の調査で、どのようなことが分かるのか楽しみです。

(西海パールシーセンター 中村清美)



スナメリ調査のイメージ

2009年夏、西海パールシーセンターは楽しさいっぱいの“水族館”に生まれ変わります!豊かな自然と様々な生き物たちが息づく「西海国立公園“九十九島(くじゅうくしま)”水族館」をホームページで魅力いっぱいに紹介しています。

<http://www.pearlsea.jp/renewal/index.html>

西海パールシーセンター／佐世保市鹿子前町1055番地

(電話)0956-28-4187

西海パールシーセンター
からのお知らせ



屋外大水槽

大村湾のカブトガニ

カブトガニは2億年以上も前から変わらない姿形をした、「生きた化石」としてとても有名な生き物。そんなカブトガニが大村湾に生息していることを知っていましたか？

「カニ」という名前が付いていますが、実はカニよりも「クモやサソリ」に近い仲間です。7月～8月の大潮の満潮時に、浅い砂浜へ産卵にやってきて、生まれた幼生（赤ちゃん）は干潟でゴカイやアサリなどの餌を食べ、脱皮を繰り返しながら成長します。

大きくなるにつれて干潟から藻場、海底へと生活の場所を移動します。10年以上かけて大人になることができたカブトガニは、オスとメスがペアとなり、



大村湾のカブトガニ

夏の大潮の満潮にあわせ浅い砂地へと産卵にやってきます。日本では、瀬戸内海と九州北部にのみ生息していると言われていたのですが、今では全国的に数が減り、瀬戸内海では壊滅寸前です。現在の主な生息地は山口県・大分県・福岡県・佐賀県・長崎県です



スナメリやカブトガニが

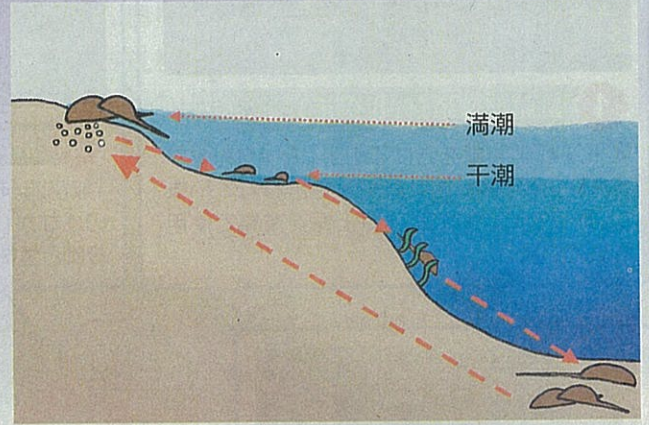
棲みつづけられる環境を守るためには、

私たちひとり一人が、身近な自然の重要性を認識すること、そして地域の自然に対し誇りを持つことが、大切です。

西海パールシーセンター 岩岡千香子さん

が、急激な環境の変化に伴い、絶滅危惧種ぜつめつきくしゅに指定されています。

大村湾のカブトガニもずいぶん減ってしまった



カブトガニの生活史

ようですが、毎年調査で今年もちゃんと産卵を確認することができます。決して多くはない大村湾のカブトガニですが、まだまだ豊かな干潟や藻場ひがたもばが健在であるからこそ、閉鎖性が強く水が入り替わりにくい大村湾の環境の中でも細々と生活しているのです。

大村湾が誕生したのは約7千年前、その誕生と共にやってきたのではないかとされているカブトガニは、その誕生から現在までの環境の変化を見続けてきた、生きた証人です。これから先もずっと大村湾を見続けて欲しいですね。

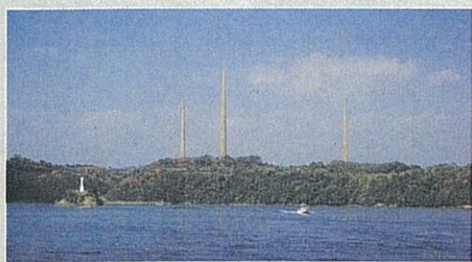
(西海パールシーセンター 岩岡千香子)



カブトガニの卵

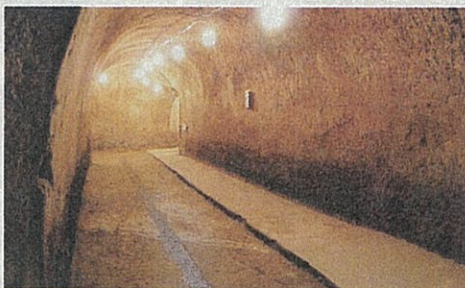
大村湾に残る戦争遺構をめぐる

大村湾に残る戦争遺構をめぐる旅に出てみませんか。忘れてはならない平和を考える大切な時間になることでしょう。また、地域の史談会は、戦争体験の語り部として、史跡の保存と調査などの活動を行っています。



1 針尾無線塔 (佐世保市)

太平洋戦争開戦を告げる暗号「ニイタカヤマノボレ」を発信した無線塔とも言われています。最近まで(平成9年)海上保安業務で使用されていました。



2 無窮洞 (佐世保市)

『無窮洞(むきゆうどう)』とは、第二次世界大戦のさなか(1943年)、当時の宮村国民学校の教師と生徒たちが掘った巨大な防空壕です。



3 特攻殉国の碑 (川棚町)

第二次世界大戦末期、川棚では「震洋」、「回天」などの特攻兵器の訓練が行われていました。ここには、戦争で散った数多くの若者の魂を顕彰する碑が建てられています。



5 川棚海軍工廠石木地下工場跡 (川棚町)



空襲をさけるため、石木郷風南山麓にトンネルを掘り24時間三交代で、航空魚雷を生産していました。



4 片島魚雷発射試験場本部跡 (川棚町)

大正7年(1918)開設され、佐世保や川棚で製造された魚雷の発射試験がここで行われていました。

6 第21海軍航空廠本部防空壕跡 (大村市)



「紫電改」などの名機を生産し、東洋一と呼ばれた第21海軍航空廠跡に残る防空壕跡です。

それぞれの施設についてのお問い合わせは、

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| ①針尾無線塔 (佐世保市) | 佐世保市社会教育課 電話0956-24-1111 (代表) |
| ②無窮洞 (佐世保市) | 佐世保市宮地区公民館 電話0956-59-2676 |
| ③特攻殉国の碑 (川棚町) | 川棚町教育委員会 電話0956-82-2064 |
| ④片島魚雷発射試験場跡 (川棚町) | 川棚町教育委員会 電話0956-82-2064 |
| ⑤川棚海軍工廠石木地下工場跡 (川棚町) | 川棚町教育委員会 電話0956-82-2064 |
| ⑥第21海軍航空廠本部防空壕跡 (大村市) | 大村市文化振興課 電話0957-53-4111 (代表) |



川棚史談会



第2回松植集會(白い点は雪)

川棚史談会は、昭和54年4月に結成され、来年で30周年を迎えます。主な活動としては、月例会での研究発表や年2~3回、史跡探訪を実施しています。最近は、平戸街道に関する調査や、植樹活動にも取り組んでいます。このほか、これまでの調査結果をまとめた「川棚町の地名」、「戦後60年の思い出」の出版物を発行するなど、精力的な活動を続けています。川棚町には、昭和17年(1942)、航空魚雷工場としては日本一と言われた川棚海軍工廠が開設されました。今でも、片島の魚雷発射試験場跡などの関連する戦争遺構が残っています。会としても町内の戦争遺構の保存活動とともに、戦争体験を次の世代に語り継ぎながら平和を守ることが使命と考えています。

大村史談会は、昭和20年代後半から活動を続けています。会員は、県外も含めると120名を超える数です。大村史談会では旧大村藩(領)を中心に歴史の研究を行うとともに、史跡並びに文化財の顕彰につとめ地域文化の進展に寄与するために色々な事業に取り組んでいます。太平洋戦争の始まる直前の昭和16年、大村に、第21海軍航空廠の建設が始まりました。いよいよ航空機の生産が開始されようとする昭和19年10月、大村大空襲により、多くの殉職者と負傷者を出し、施設は全壊の状態のまま終戦を迎えました。現在、その跡地には、学校や公共機関など立ち並び、整然と区画された敷地に往時を偲ばせるものはありませんが、会の活動を通して平和への取り組みを続けていきます。



第21海軍航空廠跡(昭和28年ごろのようす)
現在の大村郵便局あたり

大村史談会

県からの
お知らせ

大村湾再発見ガイドブック

大村湾の魅力をぐるりとまとめたガイドブックができました。自然豊かな大村湾の25ヶ所の観察エリアや希少な生き物であるスナメリやカブトガニ、そして湾岸に散在する史跡や戦争遺構などを紹介しています。他にも、レトロな大村湾、大村湾のよかもん、うまかもんなど盛りだくさん。このガイドブックを片手に、大村湾の魅力を再発見してみませんか。

好評発売中
平成19年3月発行



最寄りの書店で1冊 1,500円(税込み)で販売中

大村湾でがんばっています

長崎青バイ隊

真夏の日差しが照りつける7月27日、時津町久留里郷、大村湾海の駅マリーナ・アルパマにおいて、「長崎青バイ隊」の設立出動式がありました。この青バイ隊は、ライフジャケット装着や船舶の迷惑走行禁止の呼びかけなど、マリンレジャーのマナー向上を目指したボランティアの集まりです。海難救助の初動出動や大村湾の環境保全も重要な活動となっています。当日は、関係者の出席のもと、合同訓練や隊員紹介、宣誓式などが行われました。

興味をお持ちの方は、こちらまで、
マリーナ・アルパマ(ヤマハマリン西九州)
電話 095-882-1829 担当 当房



長崎青バイ隊の出発式

6月24日、25日の両日、大村市竹松住民センターで、「大村湾から未来へ」をキャッチフレーズに、大村湾の生きもの展が開催されました。当日は、大村湾で獲れる魚や貝、約50種類の生き物の展示や実際に手で触れるタッチコーナーが設置されました。招待された園児たちは、日頃、体験することのない経験に、おおはしゃぎでした。水上所長は、「自分たちが見た生き物がいつまでも棲める大村湾にするためにはどうすればよいかを考える機会になれば」と話されていました。



タッチプールに喜ぶ子供達

大村湾の生き物展



環境フェスタ in 琴海

長崎市の琴海文化センター(長崎市長浦町)で、10月12日、琴の海癒しの町づくり研究会の主催により「環境フェスタin琴海」が開催されました。当日は、基調講演のほか、有用微生物を使った生ゴミの堆肥化や小学生によるプール清掃体験などの活動事例報告がありました。また、玄関ロビーでは、活動内容の展示もあり、大村湾の環境保全のための呼びかけが行われました。



基調講演のようす

時津町公民館の主催で、10月7日、「シルバーとぎつ高齢者教室」として、約200名の参加による大村湾クルージングが行われました。当日は、安田産業汽船(株)の船を貸切り、時津港から西海橋を経て、九十九島までの航海を楽しみました。この日のために調べた大村湾の歴史や見どころなどについて、グループ発表が行われるなど、大村湾の魅力を再認識しました。



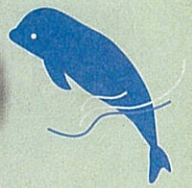
大村湾クルージングのようす

大村湾クルージング





大村湾にくらす



青山泰 理事長

大村湾の奥、時津町を中心に地域の環境保全やカンボジアの子どもたちへの支援など独自の活動を続けているNPO法人コミュニティ時津。その理事長を務める青山 泰さんをご紹介します。

子どものころから時津の海や山とふれあってきた青山さん。大村湾の昔と今の移り変わりを見てきました。多くの人と関わりを持ちながら地域貢献がしたいとの思いから、勤めていた会社の定年退職を機に、NPO法人コミュニティ時津を立ち上げました。

「時津町内には、ホテルが乱舞する町を目指して飼育放流をしている人、カンボジアの孤児院へ支援活動をしている人など、多くの方々、様々なボランティア活動を続けています。みなさんが協働できる拠点になれば」と話す青山理事長。パソコン教室の開校、海岸清掃、子どもたちとの大村湾クルージング(環境体験学習会)、カンボジアへの支援など、その活動範囲は多岐に渡ります。

「今年も、12月に、カンボジアを訪問し、子どもたちへ文具などの支援品を届けるようにしています。今回は、時津中学校の生徒さんたちに作ってもらった紙芝居(浦島太郎、桃太郎)を、海外青年協力隊の協力で現地語訳をつけて、現地の小学生の前で上演する予定です。このような取り組みが両国の虹の架け橋になれば幸いです」と静かに語りかけていただきました。

最後に、今後の活動について、「NPO法人コミュニティ時津の活動や運営には、多くの方々が携わっています。だからこそ、持続できる社会貢献のあり方を考えていかなければと思っています。」

NPO法人コミュニティ時津のホームページ <http://www.togitu.org/>



詩島(大村湾)での環境体験学習会のような様子

大村湾の環境を守るために



大村湾での水質調査の様子

長崎県では、毎月、湾内の17地点で、水質調査を続けています。大村湾の水質は、下水道などの普及により、近年、改善の傾向が見られますが、湾奥部などでは、依然として環境基準(COD2.0mg/l)を超過した状態が続いています。

ゴミを捨てない、台所から油を流さない、水を使いすぎない等、私たちの暮らしの中で実践できる大村湾の環境保全に取り組みましょう。

長崎への道



日本26聖人上陸記念碑(時津町)



日本26聖人乗船場跡(東彼杵町)



日本26聖人殉教の地(長崎市)

西暦1597年1月初め(慶長元年、豊臣秀吉の時代)に捕らえられた24人のキリスト教信者(途中、2人が加えられた)が罪人として見せしめのため京都大阪を1月9日に発ち、2月5日長崎西坂の丘につくまでの道のりを世に「長崎への道」と言われ、各地に記念碑などが建てられています。その最期の地に着く前日の夕刻、手を縛られたまま、彼杵の浦(東彼杵町)から三艘の船に乗り、時津に着いたのは夜の11時を過ぎたころでした。雪の降る、寒さのきびしい夜でした。30日間、満腹に食べものも与えられず、うへと寒さと疲労にたえながら、26人は舟のなかで最後の夜をすごしました。そして、2月5日の朝早く、時津街道を歩いて西坂の処刑場へと向かったのです。(東彼杵町・時津町のホームページを参考にさせていただきました。)

大村湾のおすすめスポット



大村湾周辺にお住まいの
皆様の情報誌です。

大村湾 かわら版

平成20年11月発行
編集・発行/長崎県環境政策課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL 095-895-2355
FAX 095-895-2566



■ 大村湾に関する環境情報を提供してください。 ■

- 長崎県環境政策課 ◎電話 095-895-2355 ◎FAX 095-895-2566
◎E-mail omurawan@pref.nagasaki.lg.jp
- 長崎市環境保全課 ◎電話 095-829-1156 ◎FAX 095-820-0316
- 佐世保市環境保全課 ◎電話 0956-26-1787 ◎FAX 0956-34-4477
- 諫早市環境保全課 ◎電話 0957-22-1500 ◎FAX 0957-22-9137
- 大村市環境保全課 ◎電話 0957-53-4111 ◎FAX 0957-54-0404
- 西海市環境政策課 ◎電話 0959-37-0065 ◎FAX 0959-23-3101
- 長与町環境対策課 ◎電話 095-883-1111 ◎FAX 095-883-2061
- 時津町住民環境課 ◎電話 095-882-2211 ◎FAX 095-881-2764
- 東彼杵町町民課 ◎電話 0957-46-1111 ◎FAX 0957-46-0884
- 川棚町住民福祉課 ◎電話 0956-82-3131 ◎FAX 0956-82-3134
- 波佐見町保健衛生課 ◎電話 0956-85-2111 ◎FAX 0956-85-2337